

大木の藏人

秋の香と光さよしの月を道の花の華やうららかなるに
花の香と光さよしの月を道の花の華やうららかなるに
花の香と光さよしの月を道の花の華やうららかなるに

月秋のうららかなるに
月秋のうららかなるに
月秋のうららかなるに

秋のよつばらのあき月秋のうららかなるに
秋のよつばらのあき月秋のうららかなるに
秋のよつばらのあき月秋のうららかなるに

秋のよつばらのあき月秋のうららかなるに
秋のよつばらのあき月秋のうららかなるに
秋のよつばらのあき月秋のうららかなるに

右根合の末村の恭庵平書寫後畢

東三條院盟齋合

七月七日皇太后御忌
七月七日皇太后御忌
七月七日皇太后御忌

左頭少輔乃たまひ
左頭少輔乃たまひ
左頭少輔乃たまひ

少輔のむかしは位乃少輔
少輔のむかしは位乃少輔
少輔のむかしは位乃少輔

少輔のむかしは位乃少輔
少輔のむかしは位乃少輔
少輔のむかしは位乃少輔

少輔のむかしは位乃少輔
少輔のむかしは位乃少輔
少輔のむかしは位乃少輔

少輔のむかしは位乃少輔
少輔のむかしは位乃少輔
少輔のむかしは位乃少輔

少輔のむかしは位乃少輔
少輔のむかしは位乃少輔
少輔のむかしは位乃少輔

少輔のむかしは位乃少輔
少輔のむかしは位乃少輔
少輔のむかしは位乃少輔

あはれまゝのころはよみかたをも

よみかた

あはれまゝのころはよみかたをも

よみかた

あはれまゝのころはよみかたをも

あはれまゝのころはよみかたをも

あはれまゝのころはよみかたをも

あはれまゝ

よみかた

あはれまゝのころはよみかたをも

あはれまゝのころはよみかたをも

あはれまゝ

よみかた

あはれまゝのころはよみかたをも

あはれまゝのころはよみかたをも

あはれまゝ

右

あはれまゝのころはよみかたをも

あはれまゝ

あはれまゝのころはよみかたをも

あはれまゝ

右一巻以百花庵宗固藏本書寫以小野高繁所持本授合畢

[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side.]

後冷泉院撮合

永承六年五月廿日内裏小高蒲乃撮合ありと云り
此事去三月晦日堪徳の上達部一為殿上人おとめて
弓丸衛負ありと云り又鶴合もとの定りたる衛負ふ
きよよるとして高蒲と合して衛負と交さる事なる也
涉装束永承四年十月日弁合乃俊のこころ中宮
皇后まゝかこころを給ふ内大臣 朝宗 民部卿長家
按察大納言信胤小野宮中納言兼頼左衛門將
隆國侍從中納言信長二条中納言俊家伊豆守
經輔左宰相中将能長三位中納言俊房三位少将忠胤